陳　情　文　書　表

（都市計画局）

受理番号	２７０７	受理年月日	令和４年２月21日
件　　名	小栗栖大岩山に持ち込まれた建設残土の全量撤去等		
要　　旨	私たちは伏見区小栗栖石川町にある大岩山山麓で生活している小栗栖地域住民である。 2017年より，伏見区醍醐支所地域力推進室まちづくり推進担当，京都市環境政策局廃棄物指導課，都市計画局開発指導課に現場の状態を訴えたが，具体的な返答はできないとの対応であった。その後も，毎日建設残土を積んだ10トンダンプが何台も搬入し続け，2018年７月５日から７日に人災による崩落が起きた後も９月まで建設残土の搬入が続いていた。多いときには１日10トンダンプ100台である。私たちは，法律に違反している作業により，南側斜面の谷であった場所が山に変わるまでに，行政の指導で止めることができなかった件に疑問と不信を感じている。京都市にこの違法行為を止められなかった具体的な回答を求める。そして，持ち込まれた建設残土を全量撤去し，元の山の姿に戻るものと思っていたが，都市計画局開発指導課の説明では，元に戻しても潰れることがあるというへ理屈のような言い訳をしている。そして宅地造成等規制法第14項第２項の規定に基づく是正指導を進めると現在も作業中である。そうであるなら住民が納得するように，元の状態の安全度と変わらないと言える明確な回答を求める。 以下の１から６は，地元住民の率直な声である。 １　京都市の開発指導課から，西側斜面への対応が住民に報告されていない。西側斜面と南側斜面の川筋が合流して大谷池に流れ込むため，大谷池の残土撤去はやはり不可欠である。 ２　あのような事態になるまで，なぜ行政は放置していたのか。そこにまず怒りを感じ，国，自治体の管理責任が問われるべきである。 ３　全量撤去されて当たり前である。それを西側と南側に分割して埋め立てるというのは新たな崩落を生むのではないか。住民は持ち込まれた土砂，産廃の全量撤去を希望しているのに，京都市は土地管理会社の味方なのか。２年前は行政代執行も視野に入れていると言っていたではないか。 ４　市役所のある洛中から見えない場所だから市長も職員も軽く見ているのではないか。不法投棄がされていると分かっていて，しばらくなすがままであった。 ５　建設残土の厚みを地質調査で確認しているのか。調整池容量計算書を示してほしい。なぜ第三者機関でそれぞれの問題点について検証しないのか。今後もするつもりはないのか。 ６　国交省関連で土木業界の設計・施工管理に携わっている者である。そもそも今回の件について，野放しにしてきた京都市の行政に大問題がある。数年前に大阪府豊能町でも業者が不法残土を積み立ててそれが崩れて，しばらく府道が通行止めになった。要するに，担当する役人が業者にすごまれて，上司に相談したとて事なかれ主義で放置されていたのが現状だったかと思われる。大阪府と京都市も一緒のように思われる。京都市の指導の在り方の改善を求める。 私たち住民の生活している頭の上にばく大な建設残土の山が新しく出来ている。日本各所で人災が起きている。不安である。搬入された建設残土全量を撤去し，京都市は全国各所の模範となる，市民が信頼し安心して暮らせる回答を求める。		
陳　情　者			
回付委員会	まちづくり委員会		